



## モンゴルで学んだこと

高岡市立伏木中学校 3年 石崎 侑

ゲルにホームステイに行く前は、日本語が全く通じないと思い不安でした。しかし、遊牧民の方々は、僕と目が合うと背けずに笑いかけてくれました。そして、嬉しそうに日本のことを話してくれました。一緒に馬で草原を駆け抜け、夜は並んで星空を見ました。朝はとても寒いのに、早起きしてスープを作ってくれました。暖かさが伝わってきました。僕は、人と人との間に、言語や人種の違いの壁なんてもともと無くて、自分が勝手に、「言葉が違うから」と壁を作っていたことに気づかされました。

第四火力発電所や消防署などの見学先には日本のマークがついた機械や消防車がたくさんあり、日本が多くの支援をしていることがわかりました。モンゴルの人々は直接支援をしていない僕に対して感謝してくれて、僕は良い気持ちになりました。モンゴルと日本はお互いに良い気持ちになれる関係が築かれているとわかりました。

研修の最後にザイサンの丘へ行くと壁画があり、そこには、かつて戦争でモンゴルと日本が敵同士であった歴史が描かれていました。違う立場に立っていた過去があっても、今は互いに手を携えて友好的な関係を築いているのだと思いました。人と人、国と国とは、互いに分かり合おうとして向き合えば、幾多の壁を越えて、平和的に関係を結び、共に歩いていくことができるのだと思いました。

モンゴルの人々は日本のことをよく知っていて、たくさん話してくれました。日本の人も、モンゴルのことや日本のモンゴルでの活動について知っていけるように、僕が伝えていきたいと思いました。